

議会だより

令和7年(2025年)10月24日

220号

おとふけ

高倉から見る夕焼け
小野寺真理江さん撮影

発行/音更町議会 編集/広報特別委員会

〒080-0198 北海道河東郡音更町元町2番地 ☎ 0155-42-2111 FAX 0155-42-3575
<https://www.town.otofuke.hokkaido.jp> E-mail:gikaisoumuka@town.otofuke.hokkaido.jp



※議会だよりはユニバーサルデザインフォントを使用しています

議会だよりは議会と町民をつなぐ架け橋です

R60

議員定数18人に改正

= 令和6年度各会計決算を認定 =

9月定例会

第3回定例会が、9月10日から10月1日までの22日間の会期で開かれ、一般会計補正予算や条例改正などの議案、意見案等について審議しました。一般質問では、10名が11項目について理事者の考えをたずねました。

議案の審議では、各会計補正予算や条例改正などの議案すべてを原案どおり可決した。

した。

議員提案による「義務教育費国庫負担制度堅持」、「30人以下学級」

令和6年度一般会計ほか国保など3特別会計、水道事業など3企業会計、関連議案2件及び報告2件は、定例会初日に設置した決算審査特別委員会（石垣加奈子委員長、伊藤萌里副委員長）に付託した。同委員会が5日間にわたり審査を行い、決算については認定、関連議案については原案可決、報告案件については報告済みとする。委員長の報告があった。1名が賛成討論を行い、全会一致で認定、可決

など教育予算確保・充実の実現に向けた要望「意見書」については、賛成多数で、「すべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める要望意見書」については、全会一致で可決した。意見書は、それぞれ関係機関に送付した。（詳細は6、7ページ）

また、音更町議会のあり方調査特別委員会の委員長報告では、反対及び賛成の討論があり、採決の結果、賛成多数で可決した。これ



軽米町のヒエポン、和ぎゅりー、モ〜るちゃん、おおそでくん
(みのり〜むフェスタおとふけ)

一般会計補正 予算の内容

大雨・強風被害
速やかに対応

9月20日から21日にかけての大雨と強風により、明渠排水路や町道等が被害を受け、その応急対策を実施する。

に伴い、議員提案による、音更町議会議員定数条例の改正案について追加提案があり、賛成多数で可決した。（詳細は6、7ページ、16ページ）

全共開催PR すずらん和牛給食を提供

全国和牛能力共進会PR事業として、町内の全小中学校で、和牛に関する授業とともに、すずらん和牛給食を提供し、イベント開催に向けた醸成を図る。

議会会議録に関するお知らせ

音更町議会は議会会議録を公開しています。ぜひご覧ください。



<http://www.town.otofuke.hokkaido.dbsr.jp/index.php/>

第3回定例会初日の9月10日、小野町長から行政報告がありました。

行政報告

◆水道基本料金の免除期間延長

物価高騰対策として、公共施設を除く町内全ての上水道及び簡易水道の契約者を対象に、今年7月から10月検針分まで、4か月分の水道基本料金の免除を行っているが、国から追加で交付される交付金を活用し、免除期間を更に1か月延長することとした。

◆西中音更小学校の閉校及び統合

西中音更小学校は、昭和6年に特別教授場として開校以来、94年にわたる長い歴史と伝統を有し、学舎を巣立った多くの有能な人材が現在も各方面で活躍されている。しかし、近年は児童数の減少が続き、今後大幅な増加が見込めない状況にある。

こうした中、PTAと地域の皆さんが子どもたちの教育環境などを考慮し、将来の方向性について話し合いを重ねた結果、教育委員会に対し、西中音更小学校を閉校及び統合することで一致した旨の文書が提出された。

これを踏まえて、令和8年度末をもって西中音更小学校を閉校し、駒場小学校に統合することとした。

なお、閉校後の校舎等の利活用については、町内各部署と連携を図りながら検討を進める。



決まった 主な内容

議員定数条例を改正
2人削減し18人に

音更町議会のあり方調査特別委員会の報告を受け、議員定数条例を改正し、次期一般選挙から議員定数を現行の20人から18人に2人削減する。

災害時の対応 事業者の拡大

災害その他非常の場合において、他の市町村長の指定を受けた事業者等が給水装置及び排水設備等に関する工事を行うことができるようにするために音更町水道事業給水条例及び音更町公共下水道条例を改正する。

人権擁護委員の 推薦を決定

12月31日で任期満了となる人権擁護委員について、次の方の推薦を決定した。

- ・佐藤 陽子さん (再任)
- ・猪俣 律子さん (再任)
- ・對馬 徹雄さん (再任)

農業委員の 任命に同意

農業委員会委員について、次の方の任命に同意した。

- ・本田 英樹さん (新任)
- ・江崎 泰嘉さん (新任)

主な一般会計補正予算 (千円以下切り捨て)

・畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業補助金 (豆類等の安定生産対策、省力作業機械導入に対する補助)

1億3,361万円

・児童生徒各種大会参加交付金 1,100万円

・福祉灯油費 720万円

・不妊治療費助成金 680万円

写真の応募 ありがとうございました



今号の表紙は、町民の皆様から応募いただいた写真を掲載しています。

たくさんのご応募ありがとうございました。

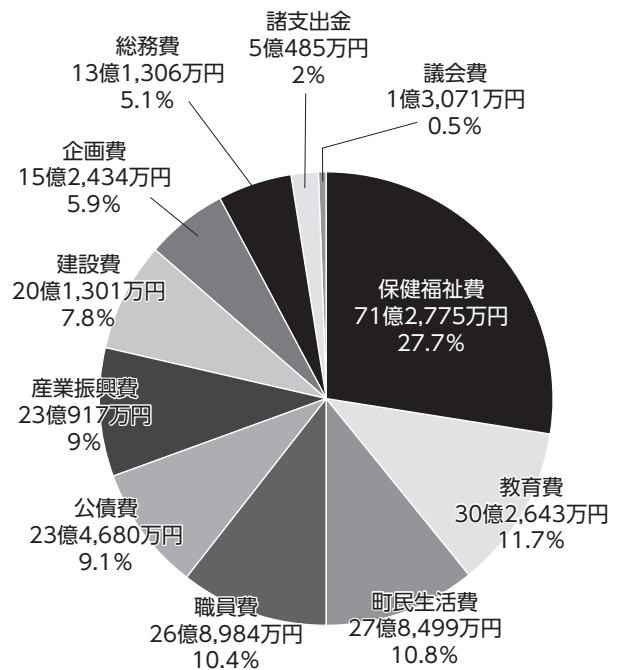
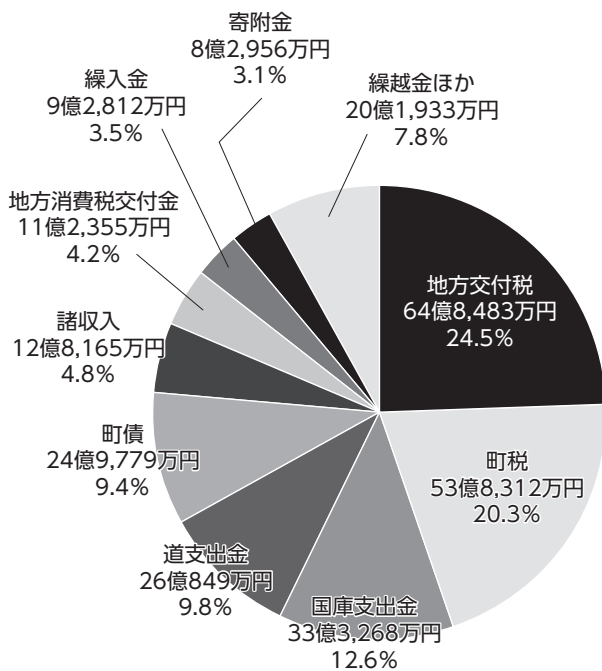
令和6年度
決算審査
ハイライト

子どもたちの健康を守る エアコン設置

一般会計の決算額

歳入総額 264億8,912万円

歳出総額 257億7,095万円



物価高騰や不安定な国際情勢の影響を受け、町民生活に厳しい状況が続く中、本町は柔軟に対応し、生活の安定と将来を見据えた施策が進められた。

十勝地方を襲った記録的大雪では、農業者への支援としてビニールハウス等撤去費用の助成が迅速に行われ、除雪対応も素早く進められた。町民生活を守る力となり、職員の尽力に敬意を表する。

教育分野では、タブレット端末の活用や小学校へのエアコン設置が進められ、子どもたちの学びと健康が守られた。クーリングシエルトの整備や個別避難計画の推進、福祉・医療・介護体制の充実も進展した。

財政は黒字を確保し健全性が維持されており、今後も町民に寄り添った行政運営を期待し、賛成討論とする。

賛成
大雪被害の迅速対応を評価

柴田 秀樹 議員 (創成会)

定例会最終日、令和6年度決算認定に対し、賛成の討論がありました。その内容を要約して掲載します。

決算審査で討論

概要説明

Q 今後の社会保障関係費の見通し、公共施設の維持更新・長寿化の課題は。

A 社会保障関係費は今後も増加傾向と見込んでいる。公共施設は、国の補助金や起債を活用し、計画的に長寿化を進めていく。

総務費

Q デジタルデバインド対策は。

A 町独自の対策は行っていない。シニア学級など要望があれば対応する。

企画費

Q 地域交流事業の増加の要因とその効果は。

A 町内会のイベントに係る補助対象を拡大し、申請が増加。コロナ禍で減った地域交流が盛んになった。

保健福祉費

Q 保育士の配置希望人数に対して不足数は。

A 22人

Q 中学1・2年生へインフルエンザワクチン接種助成をした場合、町の負担額は。

A 約75万円

Q こども家庭センターへの相談内容は。

A 育児相談等64%、養護相談等22%、しつけや不登校相談等11%、その他非行の相談も増えている。

町民生活費

Q ハチ駆除の対応基準は。

A 危険度や場所に応じて優先度を設定。住民安全を最優先に対応する。

産業振興費

Q 甜菜の生産状況は。作付面積200畝減、栽培戸数は10戸減。

Q モンベルパートナーシップの効果は。



牛乳飲んで元気いっぱい！(よつ葉ミルクフェスタ)

Q 東大雪エリアを紹介する冊子で、100万人を超える会員に紹介され、PRができています。

A 紹介する冊子で、100万人を超える会員に紹介され、PRができています。

建設費

Q 公営住宅の申込状況は。

A 申込99件、入居23件。取り止め6件のうち5件は子育て世帯向け賃貸補助住宅に入居。

Q 公園にあるバスケットゴールの安全性は。

A 11公園12施設を毎年点検。必要に応じて修繕していきたい。

教育費

Q 小中学校の特別教室や体育館などのエアコン整備の方針は。

A 現時点で具体的な考えはないが、先行している他自治体を調査し、検討していきたい。

Q 文化センター長寿命化事業手法の検討結果は。

A 築40年を迎えるに当たり長寿命化と今後の文化センター像を検討した。財政負担の考慮も必要。

水道事業会計

Q 耐震化に係る導水

A 心の教室相談員、スクールカウンセラーなどを各小中学校に配置し、「総合教育相談窓口」を設置。教育支援センターはチラシ配布で周知を検討。

職員費

Q 時間外勤務が減った要因は。

A 職員を増やしたことや、人事異動が小規模だったため。DX化で事務の簡素化につながった。

Q 管更新費用の要求に対する国の補助は。

A 100%

総括質疑

Q 認可保育園を希望したが、認可外に入園したケースは。

A 年度当初はいない。認可外に入園した場合、町が助成し保護者負担はない。

Q マイナンバーカード返納数と理由は。

A 29件。使用目的がない、紛失時の不安が6件。その他は紛失後、発見したもの。

音子ちゃん
(まちの台所)



この他にも
たくさん
の
質
疑
が
あ
り
ま
し
た



議案審議で討論

定例会最終日、3件の議件に対し、賛成及び反対の討論がありました。その内容を要約して掲載します。

請願第4号
義務教育費国庫負担制度堅持、「30人以下学級」など教育予算確保・充実の実現に向けた意見書の提出を求める件

反対 有効性の検証を

堀井 正憲 議員 (音和の会)

義務教育費国庫負担制度は、我が国の教育水準を維持してきた制度であり堅持には賛成。しかし「30人以下学級」では同じ学級で接する子どもが少なくなることで、多様性が反

請願・陳情の審査結果

区分	請願第4号	請願第5号
件名	義務教育費国庫負担制度堅持、「30人以下学級」など教育予算確保・充実の実現に向けた意見書の提出を求める件	すべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める要望意見書
提出者	連合北海道音更地区連合会 会長 菊谷 孝義	
審査委員会	総務文教常任委員会	
結果	採択	採択

映されにくいことや、競争原理が働かなくなり、学力向上につながりにくくなる懸念があり、有効なのか検証する必要がある。教育環境の整備や教職員定数は、理不尽な

保護者への対応などを専門家に委ねることで改善可能と考え請願には反対する。

賛成 義務教育費の充実を

伊藤 萌里 議員 (新緑会)

子どもたちを取り巻く環境が厳しくなる中、きめ細やかな教育のため「30人以下学級」の早期実現が望まれる。音更町では町費で維持しているが、自治体の財政状況に左右されず教職員を安定的に確保するには国の責任が不可欠である。教職員の

国等へ 要望意見書を提出しました

- 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する要望意見書
- 義務教育費国庫負担制度堅持、「30人以下学級」など教育予算確保・充実の実現に向けた要望意見書
- すべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める要望意見書



意見書の全文はこちらをご覧ください

音更町議会のあり方に関する件 (音更町議会のあり方調査特別委員会報告)

反対 議会機能の充実を

石垣 加奈子 議員 (日本共産党)

議員定数を削減すべき意見に「2人ずつ減らしてきたが特に問題ない」とあるが、議会機能への影響や議員負担の変化など、明確な検証がされていない。さらに町民アンケート結果では、今後の議員定数について「現状維持」「増やすべき」を

賛成 情勢を鑑みて妥当

新村 裕司 議員 (公正クラブ)

議会に多様な民意の反映は重要だが、その時々々の情勢や財政状況などを鑑みながら、必要最小限の構成で進めていく考え方が、これまでも多くの地方議会において取り入れられ、住民にも受け入れられていた。本町議会も従来からそのように対応してきた経緯がある。民意を反映できる必要最小限の定数の見極めが重要だ。2人削減は、同規模の他自治体の状況も参考にしながら、本町の情勢や今

後の見通し、歴史などを総合的に勘案しても、
適切な判断である。

反対

民主的運営に問題

かみなが 神長 基子 議員 (日本共産党)

反対理由の第1は、本特別委員会の設置目的と、委員会が出した結論との整合性がとれていないのではないかとのこと。第2は住民との意見交換の場を設けなかった理由に納得がいかないこと。第3に、慎重な運営を求めたが、討論の機会す

賛成

現状考慮し削減を

ひらこ 平子 勇輔 議員 (創成会)

人口規模が本町と同程度の全国の議員定数は、平均すると16から18人という町村が多い。一方面積、人口密度では本町が466平方キロ、人口密度が92人に対し、多くの町村は35平方キロ以下程度に1200から3500人とコンパクトな土

会議案第1号 音更町議会議員定数条例の一部を改正する条例案

反対

定数維持で質向上

いしがき 石垣 加奈子 議員 (日本共産党)

議員定数の削減により、1人当たりの担当地域が広がり、住民と議会の距離が遠くなり、多様な民意の反映機会が失われる。また、委員会審議や、議会の監視機能・政策立案機能が低下する。定数削減ではなく、住民との対

反対

民意を受け止めよ

かみなが 神長 基子 議員 (日本共産党)

定数削減は、議会本来の役割を発揮することや、議員のなり手不足の課題に対応することと逆行する。今年3月に議会が取り組んだ町民アンケート(送付分)では、議員定数増及び維持を望む声が、削減を望む声を上回る

議案等に対する議員の賛否一覧表

(賛否が分かれたものについて掲載)

音更町議会では、議員個々の考え方や活動に透明性を持たせ、町民の皆さんに周知を図るため、本会議で審議された議案等に対する賛否の状況を掲載しています。

- 請願第4号 義務教育費国庫負担制度堅持、「30人以下学級」など教育予算確保・充実の実現に向けた意見書の提出を求める件
- 意見案第2号 義務教育費国庫負担制度堅持、「30人以下学級」など教育予算確保・充実の実現に向けた要望意見書

氏名	阿部 秀一	石垣加奈子	重堂 聡	神長 基子	堀井 正憲	堀江 靖祥	伊藤 萌里	三浦 和子	佐藤 和也	堀江 美夫	不破 尚美	小澤 直輝	阿部 利徳	柴田 秀樹	平子 勇輔	上野 美幸	松浦 波雄	新村 裕司	山本 忠淑	高瀬 博文 (議長)
○=賛成 ×=反対	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※議長は、表決に参加しない。

●音更町議会のあり方に関する件

●会議案第1号 音更町議会議員定数条例の一部を改正する条例案

氏名	阿部 秀一	石垣加奈子	重堂 聡	神長 基子	堀井 正憲	堀江 靖祥	伊藤 萌里	三浦 和子	佐藤 和也	堀江 美夫	不破 尚美	小澤 直輝	阿部 利徳	柴田 秀樹	平子 勇輔	上野 美幸	松浦 波雄	新村 裕司	山本 忠淑	高瀬 博文 (議長)
○=賛成 ×=反対	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※議長は、表決に参加しない。

一般質問

9月12日、16日、17日に、10名の議員
が理事者の考えをたしました。
その内容をお知らせします。



スマホで議会を見よう!

傍聴しなければわからない議員の姿を映像で。
リアルな雰囲気伝わります。

音更町議会 議会中継



見たい会議を選んで視聴できます。



いつでも
どこでも
見られるね。



質問Ⅱ 民生・児童委員
は見守りや相談内容に
応じて行政機関へつな
ぐ役割を担うなど、地
域福祉を支えている。
孤独死、自殺、ひきこ
もりなど、子どもから
高齢者まで様々な困難
を抱える人が増加して
いるが、誰かが見えて
いてくれるという安心感
を生み出すことで、孤
立や虐待を防ぐ効果も
期待される。地域共生
社会の実現を目指す上
で、① 民生・児童委員
の活動状況と課題は②
社会的孤立を生まない
地域づくりを進めるた
めの本町の取組は。



阿部 秀一 議員 (笑顔みらい音更)

民生・児童委員の現状は 孤立を生まない地域づくり

民生・児童委員の現状は

担い手確保に課題
相談・見守りを実施

小野町長Ⅱ①活動件数
は1万1178件で、
1人当たりの1か月の
平均活動日数は、4.
6日となっている。複
雑化する相談内容への
対応や担い手確保など
の課題がある②3か所
の地域包括支援センタ

ーや福祉課内に「せい
かつ相談窓口」を設置
するなど、相談体制を
整備。また、音更町社
会福祉協議会による
「見守り訪問事業」な
どに加えて、町内のコ
ンビニなどの協力事業
者による「高齢者等あ
んしんネットワーク事
業」などの見守り活動
も行っている。



地域の相談役
(民生児童委員協議会総会)

WGIP (P9)

CONVICTION

「ウォー・ギルト・
インフォメーション・
プログラム」の
略で、第2次世界大
戦後に、連合国軍占
領下の日本で実施さ
れた情報・教育施策。
日本の戦争に関する
理解を促し、民主化
を進めることを目的
として行われた。

地域学校協働活動 (P10)

地域住民、学生、
保護者、NPO、民
間企業、団体など、
幅広い地域住民が参
画して、学校と地域
が連携・協働して行
う活動。地域全体で
子どもたちの学びや
成長を支え、学校を
核とした地域づくり
を目指すことを目的
としている。

官製ワーキングプア (P12)

国や地方自治体な
どの公的機関で、非
正規雇用の立場で働
く人々のうち、低賃
金で生活に困窮して
いる人々。

愛国心を育む教育を

教科書の史実は正確か

堀井 正憲 議員 (音和の会)



質問Ⅱ 大東亜戦争後、GHQの*WGIPによって、戦争は「日本の一方的な侵略である」という認識が根強く残っていると考える。学校教育によって正しい歴史認識を育み、学習指導要領に掲げられている「我が国と郷土を愛する」を達成するために、本町の義務教育で使用している社会科の教科書について伺う。①掲載されている史実は正確であるのか②子どもたちの教養を高めるために記載の正しい内容でも指導できるのか。

学習指導要領に基づき適切に教材を使用

福地教育長Ⅱ①教科用図書は、学校教育法の規定により、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならぬものと定められ、授業に最も

適した主たる教材である②教育的見地から見て有益適切なものは、校長の責任の下、各学校において使用できることとされている。教科用図書の記述と整合性を保つことを基本に、特定の見方や考え方に偏った取扱いとならないことが求められている。



二度と戦争を起こさないために (忠魂碑)

パートナーシップ制度

早期導入を強く求める

三浦 和子 議員 (新緑会)



質問Ⅱ パートナーシップ制度導入自治体は、全国に広まっている。また、札幌・東京・福岡・名古屋・大阪の各高裁全てで同性婚を認めないのは憲法違反との趣旨の判決が出た。企業でも多様な性に配慮した取組がなされ、同性婚にも異性婚と同様の福祉制度を適用する会社等が多くある。そこで、パートナーシップ制度導入を検討している町の考えを伺う。①パートナーシップ制度導入に向けた手順とスケジュールは②LGBTQの方への配慮は。

導入に向け内部協議一定の時間は必要

小野町長Ⅱ①先進事例の優れた点などを取り入れつつ、制度の概要をまとめ、必要な内部協議を進めていく。時期を捉えて、議会にも報告しながら、制度の詳細を固めていくが、導入までには一定の時

間を要する②「第2期おとふけ男女共同参画プラン」の施策を着実に推進しながら、性的指向と性自認への正しい理解の促進や、多様性を尊重する意識の浸透などを図っていく。性的マイノリティの方が生きづらさを感じる場面を少しでも減らしたいけるよう努める。



学生手作りのポップで展示 (男女共同参画図書館。)

フェノロジーカレンダーで

更なるまちづくりの推進を

小澤 直輝 議員 (創成会)

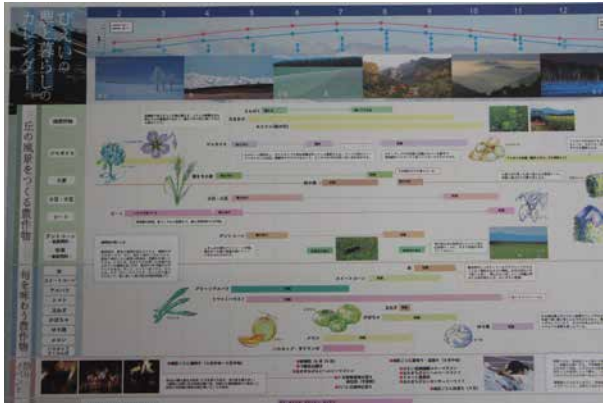


作成する考えはない
協働のまちづくり重要

質問Ⅱフェノロジーカレンダーは、特定の地域の気象、自然、動植物の移り変わりや人々の営み、祭礼行事、食の旬など1年365日の様々な事象をまとめた生活季節暦である。制作には、情報収集やワークショップなど多くの方が関わり老若男女問わずたくさんのお出合いが生まれ、まちの活性化につながる。音更町でカレンダーが制作されれば、様々な活用ができる。町として、カレンダーを通じてまちづくりを推進する考えを伺う。

小野町長Ⅱ町は、まちづくり懇談会、*地域学校協働活動による児童生徒との意見交換など、子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象に意見や要望を伺う様々な機会を設けている。このような機会

は、参加された方々がまちをより深く知るきっかけになるとともに、参加者間の新たな出会いや交流の場などにもつながる。カレンダーを作成する考えは持ち合わせていないが、協働のまちづくりの重要性は認識しているため、今後も町民参加の機会の確保に努めていく。



音更町だとどんなカレンダーができるかな
(美瑛町フェノロジーカレンダー)

指定管理者制度の現状は

町民の理解を深める取組を

伊藤 萌里 議員 (新緑会)



雇用確保等が課題
評価結果公表を検討

質問Ⅱ本町は指定管理者制度を平成18年度から導入し、現在に至るまで指定管理者が運営する施設が複数ある。親しみのある施設として町と民間事業者が一体となって支えてきた経緯があるが、制度自体が町民にあまり認知されていない。今後も町民に寄り添いながら持続的に運営を続けられるために、以下の点について伺う。①本町における指定管理者制度の現状と課題は②制度や施設の評価結果等を広報紙等で公開する考えは。

小野町長Ⅱ①現状大きな課題はないが、更新時や新規施設への導入の際、労働者人口の減少により雇用確保が難しくなってくることや、人件費・物価高騰の影響により、応募者が少なくなることは懸念。

多くの事業者に応募いただけるよう、事業者とのコミュニケーションの機会の確保、新規参加者の相談体制の強化を図る②町民の指定管理者制度への理解を深め、より一層町民の声を反映した管理運営ができるよう、評価結果の公表は、制度の周知と合わせて検討する。



幼児用プレイルームもあります
(サンドームおとふけ)

*地域学校協働活動= P8 「ひとくちメモ」を参照

障がい者の雇用と就労

地域全体で理解の促進を

不破^{ふわ} 尚美^{なおみ} 議員(新緑会)



関係機関と連携し 支援に取り組む

質問Ⅱ 地域共生社会の実現に向けて、障がい者福祉の施策は制度改正を重ねて、様々な変化が見られている。

本町では「おとふけ障がい福祉総合プラン2024」の重点施策として就労支援体制の強化が掲げられている。障がい者が就労する際の社会的な偏見や企業の理解不足の解消、障がいに対する理解を深める啓発運動、地域全体の意識向上に向けた取組が必要と考える。

障がい者の雇用と就労につなげるための町の取組について伺う。

小野町長Ⅱ 職場体験事業や農福連携事業など

多様な就労機会の確保や就労支援体制の強化を図っている。また、障がいに対する理解の促進も重要であるため、毎年12月の「障害者週間」に合わせたパネル

展の開催やパンフレットの全戸配布を継続するほか、今年度は講演会の開催も予定している。今後も障がいの有無にかかわらず誰もが当たり前に生活ができるよう、音更町障がい者総合支援協議会や関係機関などと連携しながら、雇用と就労につなげる支援に取り組む。



狙いを定めてシュート
(北海道障がい者スポーツ大会)

こどもに適切な保育を

柔軟な利用には懸念あり

神長^{かみなが} 基子^{もとこ} 議員(日本共産党)



発達や育ちを支える 国の基準で人員配置

質問Ⅱ 満3歳未満までの未就園児を対象とする「こども誰でも通園制度」が令和8年度から実施されるが、低い基準で柔軟な利用を保障するような設計には懸念がある。こどもの成長と発達を保障し、適切な保育の提供を行うためには、慎重な運用が求められる。①既に行っている一時保育とのすみ分けについての想定は②「こども誰でも通園制度」の人員配置を、国が示す基準より高くし、手厚い保育が行えるよう設定する考えは。

小野町長Ⅱ ①一時保育

は、保護者の用事や急病、リフレッシュのため、保護者が一時的に保育できない状況を支えることを目的としているのに対し、こども誰でも通園制度は、同年代の子どもの関わ

りや専門的な支援を受ける機会を提供により、子どもの発達や育ちを支えることを目的としている②人員配置基準を高く設定することは、手厚い保育につながるが、保育士の確保や利用者数の予測、財源の確保などの課題もあることから、国の基準に準じた設定を行いたい。



どんな料理ができるかな
(おとふけ子育て支援センター)

指定管理者制度の評価は

非正規雇用増などの影響は

いしがき かなこ
石垣加奈子 議員 (日本共産党)



施設の魅力を引き出せた
非正規雇用の増加はない

質問Ⅱ 公の施設は、地方自治法で「住民の福祉を増進する目的」と規定されている。指定管理者制度は、営利を目的とする民間事業者が管理しており、全国的には、「コストカットのツール」[※]「官製ワーキングプアを生む」といった指摘もある。音更町で制度が導入され約20年が経過し、検証が必要である。①制度導入の目的である住民サービス向上と経費削減への評価と課題は②制度導入により、非正規雇用の増加など雇用への影響は。

施設の魅力を引き出せた
非正規雇用の増加はない

物価高騰の影響により、応募者が少なくなることで懸念される②経費の削減は、管理業務の効率化や運営の工夫によるもの。制度自体が非正規雇用の増加に影響を及ぼしているものではない。募集段階でも業務内容に見合った従業員の確保を求めている。



感謝を込めて笑顔の1枚
(道の駅おとふけ来場者500万人達成セレモニー)

中高生世代の社会性育成

特技活かし社会参加推進を

じゅうどう 重堂 さとし
重堂 聡 議員 (日本共産党)



地学連携を引き続き実施
中高生世代の活躍を推進

質問Ⅱ 中高生世代は、スマートフォンやインターネットの普及により、対話での関係づくりや学び合いの機会が減少しており、親以外の様々な人間関係の中で社会性を身に付ける必要がある。社会の中心的役割を担っていく中高生世代の育成は大切な課題であると考え、次の点について伺う。

福地教育長Ⅱ①地域学
校協働活動において、
直接町長との対話や交流を通じてまちづくりの提案を行う活動が広がってきている。今後

係を保ち、理解促進に努めることが必要。
小野町長Ⅱ②今年から
高校生が役員として活動し始めた町内会がある。町内会活動の事例紹介を継続し、デジタル技術の活用を推奨していくことで町内会活動を支援し、中高生世代の社会参加の推進にもつなげていく。

①中高生世代の社会参加の促進についての現状と課題は②中高生世代の特徴や特技を活用した町内会活動への協力など社会参加を推進していく考えは。



SNS時代の情報リテラシーを育む授業
(共栄中学校)

※官製ワーキングプア=P8「ひとくちメモ」を参照

子どもたちの新たな居場所

屋内遊戯施設の波及効果は

上野 美幸 議員 (創成会)



地域学校教育活動で対応
観光客や宿泊者の増加へ

質問Ⅱ①子どもたちの自己肯定感の低さの課題解決のため、地域全体で子どもたちを支える仕組みが必要。島根県益田市の「カタリバ」を参考に、中高生の居場所づくりとして、現行施策と連携して子どもが憧れの大人と語り合える場を設ける考えは②屋内遊戯施設は、子どもたちが想像力やコミュニケーション力を育む場として意義深く、町全体の活性化に期待が寄せられている。施設整備による子育て環境、子ども施策、観光振興への効果は。

福地教育長Ⅱ①「カタリバ」は、憧れの大人と対話することで自己肯定感を高め、自己の可能性を信じる力を育むことを主眼とした取組。地域学校協働活動において、地域の多世代の大人と語り合える

場を数多く設けている。小野町長Ⅱ②十勝川温泉地域の活性化につながる新たな観光拠点施設を整備することで、町の観光入込客数や宿泊者数の増加につながる。また、地域の子育て世代を中心とする皆さんが十勝川温泉地域に足を運び、楽しめる機能を併せ持たたい。



学生の視点でご意見をいただきました
(音更高校意見交換会)

議会にひとこと

子どもの医療費助成
対象を18歳までに

K・Sさん
(ひびき野東町2丁目)

私は現在、中学3年生と小学3年生の男の子を育てていますが、是非、音更町でも子どもの医療費助成対象を18歳までに拡大してほしいと思います。十勝管内の市町村のホームページを調べたところ、2025年10月現在で対象者を18歳まで

としていないのは、帯広市、音更町のみのようです。子どもが人口が違うので、単純に他町村と比べることができないことはわかります。ですが、音更町がこれまで以上に子どもを産み、育てやすいまちとして発展していくためには、子どもに関わる費用の助成を一層進めていただくことが必要だと思いますので、是非ご検討のほどよろしくお願ひします。

議会にひとこと

意思表示を明確に

Y・Mさん
(開進)

8月に2回、委員会傍聴をしました。2回通しての感想は、議員同士の活発な議論が少なかつた事です。会議のまとめの

時もほとんどの議員は無言。せめて「賛成」「反対」「異議なし」等の意思表示をすべきかと思いました。このような会議の進め方や決め方が音更町議会の慣例なのでしょうか。不安が残る委員会傍聴でした。

12月定例会(予定)

12月11日開会

会議の日程は、新聞、町のホームページに掲載されますが、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

議会は公開しています。
いつでも傍聴できます。

問合先 議会事務局

0155-42-2111

(内 252・253)

ホームページアドレス

<https://www.town.otofuke.hokkaido.jp>

「まちづくりを語り合う会」

を開催しました。

○：町民

■：議員



8月23日(土)に、町民の皆さんと議員が双方向で意見交換を図る場として「まちづくりを語り合う会」を開催しました。

参加者22名と議員が、テーブルごとに分かれてリラクセスした雰囲気です。約1時間語り合いました。

語り合いの中で出た意見などを要約してお知らせします。

※議長、副議長はオブザーバー参加

つどいテーブル

町民4名

阿部 利徳(創成会)

石垣加奈子(日本共産党)

堀江 美夫(新緑会)

○大人が夜に寄れる居場所がない。

■夜の時間に働きたい人が少ない。

○カフェなど誘致しても、大手ばかり入ってくる。事業者への町の支援は。

■学生アルバイトなど

の働き手も少なく、大手が入りやすい。小規模事業者への空き店舗補助金はあるが、中規模事業者も対象となるよう町に要望する。

○ごみの分別が都会は種類が少ないが、音更は多くて大変。冊子を見て出すが、間違っていないか心配。

■温暖化・沸騰化の時代、個人でできる温暖化対策はごみの分別だと思ふ。環境を考えると分別して資源になるものを使うようにしたら良い。最初は大変だけど慣れていく。

すずらんテーブル

町民4名

重堂 聡(日本共産党)

上野 美幸(創成会)

松浦 波雄(公正クラブ)

○外国人に対する防災対応は。

■災害に対する対応は外国人のみならず要配慮者とともに重要と認識している。町では外



和やかに語り合い、あっという間の1時間

国人に対し防災情報のメールを多言語で配信しており、転入時にチラシの配布やホームページの紹介を行っている。外国人に対する防災講座等も行ってみたい。

○音更高校への通学路が暗い。

■街路灯は、高校生からの要望もあり町として

でも増設する努力はしている。

なのはなテーブル

町民4名

柴田 秀樹(創成会)

佐藤 和也(新緑会)

小澤 直輝(創成会)

○歌や音楽活動をしており、「メロディーライン」に関心を持っている。

■商工会が命名したもので、インターチェンジから十勝川温泉までの道路は四季の風景を楽しめるコースとなっている。

○「十勝川温泉で足湯 ↓メロディーラインで景色を楽しむ ↓柳月でコーヒーを飲む」というコースをよく使っている。

■十勝川温泉には新たに屋内遊戯施設を建設予定である。また、周辺にはワイナリーやチーズ工場などの観光資源もある。



えぞりすテーブル

町民4名

堀江 靖祥(町民クラブ)
不破 尚美(新緑会)
新村 裕司(公正クラブ)

○人口減少が始まり格差が広がる中、議員は行政とのパイプ役として自分の足で現地に赴き町民の声を拾って町政に活かしてもらい、その結果を町民に伝えてほしい。

■議員活動を伝えるため、個々に努力をしている。

■農業者としての関係性を意識しながら活動している。年2回ほど活動報告のながきを送付している。

○人口減少という宿命的な課題に対して、それを前提として町民に参画し協力してもらうことが議会の取組として重要ではないか。

■若者との協働のまちづくりとして昨年、総務文教常任委員会の活

動で音更高校や帯広大谷短大の学生と意見交換を行ったところ大変有意義であった。

きたぎつねテーブル

町民3名

伊藤 萌里(新緑会)
阿部 秀一(笑顔みらい音更)
平子 勇輔(創成会)

○町内会に加入していたが、役員の負担感などがあって退会した。広報紙等が入手にくくなり、町に関する情報が入ってきにくい状況がある。抜けてみて、つながりが必要だったと感じる面もある。

■町内会の加入率の低下はどの地域においても課題。有事の際に隣近所の顔がわかるよう、自主防災組織などの醸成が必要。町の公式ラインで様々な情報発信を行っており、活用してもらいたい。

○引きこもりがちなお年寄りに遊び心を持ってもらうために、外出

機会の確保を。外に出かけられる興味を持つようなきつかけづくりと、コミュニティバスの効率的な運行、AIの活用など、公共交通の利便性を高めてほしい。

■コミバスはフリー降車を導入し好評。今年から新たな停車場を設けるなど、運行ルートを見直し変更した。自身も他の自治体で導入している自動運転バスを視察しており、引き続き調査研究していく。AIデマンドバスについては近隣自治体のデータを集計して導入を検討できないか担当部署に意見を出していく。アクティブシニアについては、高齢者の活動範囲が狭まることがないよう、様々な状況の方を支援できるように積極的に推進したい。



かわあいせテーブル

町民4名

堀井 正憲(音和の会)
神長 基子(日本共産党)
三浦 和子(新緑会)

○友人が来町したときに、観光目的で連れて行ける場所が少ないように思う。2泊以上する場合は暇を持て余しがちになる。

■町内で立ち寄れる場を提供し、滞在型観光を充実させることは従来からの課題。模索中ではあるが、観光事業者らを中心に色々な挑戦をしている。観光のアイディアは住民の皆さんからも寄せて欲しい。

○役員の成り手不足で町内会を解散しようという話がある。これから地域での見守りが必要な人たちが増えていく中で民生委員の方たちは大変だと思わないか。



町内会でコミバスツアー (北蘭西町内会)

■民生委員は国の委嘱なので、町が対応できるかは難しい部分もある。

■町内会の維持については議員も皆、問題として捉えている。

「議会だより」について
ご意見をお寄せください

Tel 42-2111

Fax 42-3575

E-mail gikaisoumuka@town.otofuke.hokkaido.jp

音更町議会のあり方 調査特別委員会の報告



山本忠淑委員長

令和6年9月10日に設置された、音更町議会のあり方調査特別委員会は、14回開催され、令和7年10月1日の本会議に審査報告書を提出しました。その内容を要約して掲載します。

調査の背景

町民の期待に応え得るより良い議会運営の実現に資することを目的に、「議員報酬」「議員定数」「多様な民意を反映する議会の役割」「議会・議員をより身近に感じ、議会への関心を高められる取組」などの視点から、議会における民意の反映とその方策について調査・検討を行った。

町民アンケート調査

調査の結果から、議会・議員活動、議員そのものに対する町民からの認知度が低い実態が浮き彫りとなった。より多くの町民に理

解と関心を高めてもらえる努力に加え、町民との信頼関係の構築、対話を通じて把握したニーズを基に議会として施策を提言することの重要性を確認した。

審議の内容

①地方議会のあり方調査特別委員会報告書(平成30年)の検証

議会活動の充実・強化、常任委員会の活性化について現時点では課題が多いと受け止めた。

町民に議会・議員に対する認識を深めてもらう活動や議員の資質向上における個々の研鑽努力、継続的な派活動の充実への取組が

重要であると結論付けた。

②議会における民意の反映とその方策

③音更町議会における現状と今後

一般質問への取組や委員会活動の活性化の更なる強化が必要。議会本来の役割を果たすために議員個々の努力はもとより、会派における取組の積み重ねも重要。令和6年から取り組んでいる「まちづくりを語り合う会」を継続、発展させることが必要と確認された。

議会・議員に対する認知不足や将来的な議員のなり手不足については大きな課題である。

④議員報酬等

令和元年5月1日から議員報酬の額を引き上げているが、現段階で議員報酬の額を引き上げる状況にはなく、現状維持が望ましいと結論付けた。

⑤議員定数

議員定数は、議員自らが決すべきとして、本町議会の現状と課題、社会情勢などを鑑み、民意を反映できる議会として妥当な定数は何人であるかについて議論を積み重ねた結果、一部を除き、定数は2人削減すべきとの意見が大勢を占めた。

⑥議会基本条例

音更町まちづくり基本条例には、「議会の役割と責務」及び「議員の責務」について規定されている。この条例の規定及び議会提要求をもって議会基本条例と同等であるという認識のもと、現状におい



1年間かけて議論した内容を報告

て議会基本条例を制定する必要はないと結論付けた。

まとめ

本特別委員会では本町議会のあり方に関する調査・検討の中で、次の一般選挙から、副議長を複数常任委員会の所属とすることで、議長の常任委員辞任後、3つの常任委員会における委員構成を各6人とし、議員定数を20人

から2人削減して18人とすることが妥当であるとの結論に達した。

今後、委員会活動の充実、積極的な情報発信、議員個人の研鑽努力、ICTの活用促進など、議会機能及び議員の資質向上を図る必要がある。こうした取組について、議会運営委員会などにおいて引き続き検討されることを期待する。

姉妹町 軽米町を訪問

7月22日から24日までの3日間、山本忠淑副議長と、1期目の議員、過去に訪問できなかった議員9名で姉妹町の岩手県軽米町を訪問した。

軽米町役場に到着すると、山本賢一町長、松浦満雄議長をはじめ議員の皆さんに温かく出迎えていただいた。



地域の資源を有効活用
(バイオマス発電所)

参加議員が自己紹介を兼ねて議員活動に対する思いなどを語ったほか、議員を志したきっかけや、議員のなり手確保についてなど意見交換を行った。

「宇漢米館」

2日目は軽米町議員にも同行いただきながら

(株)十文字チキンカンパニーのバイオマス発電所は、地域の資源である鶏糞を最大限に活用した火力発電所で、

バイオマス発電所

ら町内施設の視察を行った。かるまい文化交流センター「宇漢米館」は、令和5年12月開館の複合施設で、生涯学習、子育て支援、図書館、商工・物産・観光の機能を併せ持つ。館内は明るく、ぬくもりを感じる設計で、多目的ホールの客席300席は電動で出し入れが可能。キッチンスタジオや音楽用スタジオは、気軽に利用できる工夫がされている。施設はバス待合所も兼ねており、世代を問わず多くの人をつなぐ文化活動の拠点となっていた。

電気エネルギー供給と燃焼後の灰を肥料として活用し資源循環の一役を担っている。発電所は県内北部に点在する同社の養鶏農場所在地のほぼ中心に位置するため輸送エネルギーも最少となる。同社の環境への配慮を強く感じた。

令和7年は、軽米町と音更町が昭和60年に姉妹の盟約を交わして40年の節目となる。これまで多くの小中学生や議員をはじめ町の関係者が交流に関わり、それが両町の産業や文化の発展に大きく貢献してきたものと考えている。今後相互理解を深め、歴史上の強く結ばれた縁を大切にしながら、まちづくりにも役立っていききたいと感じた。



姉妹町締結40周年 これからも両町の発展のために

音更小学校6年生 2クラスが議会を傍聴

9月16日、17日の一般質問を、音更小学校の6年生が傍聴しました。いただいた感想の一部を紹介しします。



真剣なまなざしで議会を傍聴

○話の内容は難しく、あまりわからなかったけど、とても真剣にまじの話を話し合っていてすごいなと思いました。

○質問には、全員で話

し合いながら答えるのかと思っていたけど、同じ人がたくさん答えていて、その話題に関連していることを担当している人は、たくさん答えなければならぬから大変だなと思いました。伊藤議員は、1回質問して終わるかと思ったら、再質問をたくさんして、まちをより良くするために熱心に質問をしてすごかったです。議員さんも緊張感のある雰囲気の中で話を進めるのは、とてもすごいし尊敬しました。

○話している内容は難しかったけど、1つの質問に対して、丁寧に答えていてすごいなと思いました。ルールのようなものについて知ることができ、自分も聞いていて初めての体験で楽しかったです。

○話し合っている内容は、なんとなくはわかったけど、難しい言葉や表現なども使っていて答える人も質問する人も考えて発言するのは大変だろうなと思いました。

○いろいろな役割があって、質問する人や答

える人、議長さんなど、みなさんがいろいろな意見を出して討論し合っていて、いろいろなことが決まるんだとわかったし、音更町議会があるから、学校のエアコンなどのいろいろなことができるといことがすごいいいと思いました。

「議場コンサート」を開催します

音楽によるまちづくりの取組を通じて、より多くの方に議場へ足を運んでいただき、音更町議会を身近に感じ関心をもってもらいたくことを目的に、議場コンサートを開催します。

日時 令和7年12月15日(月曜日)
午前9時15分開演(午前9時05分開場)

場所 役場2階 議場

演奏者 Duo Arco (デュオ アルコ)
大島 弓人 さん(ヴァイオリン)
神田 尚己 さん(チェロ)
※共に音更町地域おこし協力隊員

編集後記

議会だより218号、219号に関する議会モニターアンケートでは、表紙のカラー化を求める意見が多くありました。その他にもたくさんのご意見をいただきました。モニターの方々が議会だよりを真摯に読んでくださっていることに感謝いたします。

さて、今回の紙面では、より読みやすくするために、余白や色分けなどを更に工夫いたしました。

また、今回の表紙を飾っている写真は町民の方の応募作品です。議会だよりが町民の皆様により身近に感じてもらえるのではないかと思います。

編集委員 三浦和子